



TITLE:

静脩 Vol. 29 No. 1 (1992.6) [全文]

AUTHOR(S):

CITATION:

静脩 Vol. 29 No. 1 (1992.6) [全文]. 静脩 1992, 29(1)

ISSUE DATE:

1992-06

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/66004>

RIGHT:



静脩

1992年 6 月

Vol. 29, No 1

The Kyoto University Library Bulletin

館長サナギの見習い日記

附属図書館長

朝 尾 直 弘

はからずも、この4月から西田龍雄教授退官のあとをうけ、附属図書館長の職をけがすはめにおちいりました。

大学図書館の仕事については、その重要性は認識しているものの、日常の具体的な業務はなにひとつ知らないのが現状で、目下のところ毎日のスケジュールの消化をとおして見習い中というのが実情です。以下、それらのうちの二、三について多少の感想をまじえながら報告いたします。素人くさくてどうかと思いましたが、多くの方も同様ではないかと、あえて書いてみました。

1) 土曜日開館問題

就任早々ぶつかったのは、国家公務員の完全週休2日制実施への対応でした。この問題に対する各部局のご意向はすでに昨年暮れの商議会で明らかにされており、私も商議員の一人として承知しておりましたが、そのときは実施は九月からと予想されていました。国際的な労働時間短縮の趨勢に立ち遅れないため、政府が異例の五月繰り上げ実施を号令して、あわただしく対応策を講じることになった事情はご存じのとおりです。

京都大学の蔵書数は現在500万冊を超え、年間の入館者数は2年前の統計で64万人以上に及んでいます。しかし、数字は大きいが見合うだけの内実のあるサービスがなされているかという、疑問も多いのです。世界の第一線で研究に

のぎを削っている研究者や、その後をつぐべき学生の要求にこたえ、それらをささえ押し上げていくのが一流の大学図書館の任務であると思いますが、現状はそれにほど遠い部分をかかえています。そのひとつが開館時間の問題です。

欧米の名の知れた大学図書館は24時間開館も珍しくなく、午後10時までの開館はふつうといってもよいでしょう。それでかれらは週休2日の休みはちゃんととって、ゆうゆうと仕事をしています。社会全体がそういうシステムで動いているから可能なのですが、民間の時短不足を公務員の時短で埋め合わせようという国では、システムがきしみを起こし、なかなか機能しないのが泣き所です。公務員は土日出勤してはならないときめてくださったのは有難いことですが、近年、民間研究所に対する大学の地位低下がしきりに指摘される折から、ほうっておくと土日とを休業する国立大学の地位は、いよいよ下落するおそれなしとします。そのうち風向きが変わって、大学は休んでばかりいるから研究能力が落ちるのだ、などといわれないう、せめて、いま提供しているサービスの程度を落とさないくらいは心がけるべきでしょう。

附属図書館は、各部局図書館と中央図書館とで構成されています。両者の連携がうまくとれ、円滑に動いていてこそ、総合大学の持味が発揮できるものと思います。上記の蔵書冊数も、中央だけ

ですと75万冊にしかならず、もてる力を全面的に発揮するにはいたらないかもしれません。そうはいっても、各部局が予算や人、その他多くの問題をかかえ、部局の図書館を開館する余裕がないとすれば、大学としては、相当の無理をしてでも中央図書館を開館する必要があります。商議会の議論もその方向を向いていました。さいわい、総長をはじめ大学当局のご理解を得ることができ、五月第2土曜から、土曜開館を実施しています。いろいろな制約があって、不便をおかけしていますが、いまのところ平均1000～1200人の入館者があり、関係者はみな「開けてよかった」と一様に安堵しています。外から観れば、「なんだこれぼっち」と思われるかも知れませんが、突発的な繰り上げ実施で苦勞し、献身的に働いている人たちのいることを、ときどき思い出してくださると幸いです。

先日、国立大学図書館協議会の理事会があり、全国の大学がそれぞれ苦心しておられる状況をつぶさに知ることができました。関係当局の対応も進んできており、安定した土曜開館ができるのも遠くないことと思われます。まず、それが確保されたうえで、文字どおり世界のなかの京都大学にふさわしい、さらに踏みこんだサービスができるよう努力したいと思っています。

2) 学内LANの基盤整備

文学部出身の私には、コンピュータはブラックボックスのようなもので、いまだに理解を超越していますが、便利な結果だけは頂戴したいというのが正直な気分です。

館長になって気が付いたのは、図書館のコンピュータ利用がいちじるしく理工系に偏って発達していることです。あるいは理工系のなかでも一部に偏っているのかどうか、その辺りはまだよくわかりません。これは京大に限らず、日本全体がそういう状況にあるといえそうです。人文系や社会系でも、ごく一部にはひどく進んだところがあるのかも知れません。

この中央図書館において、理工系のある分野では、コンピュータを通じて海外の最新の雑誌や速報の情報を即座に得ることができます。一刻一秒

を争う発見や発明の競争にとって、それはたしかに欠くことのできない道具になっています。しかし、それほど急がない人文系でも利用の範囲は広いように思えます。海外の古典的文献や最新の研究で日本では入手不可能なもの、入手困難なものは沢山あり、ある種の分野では、そのために博士課程の教育研究に支障をきたしているところも、すくなくあります。これをコンピュータの画面に引き出すことができれば、どんなに便利なことでしょう。

京大には、KUINSという国内随一の学内LANがあって、国際的な情報ネットワークの一環に結ばれ、いわば受け入れの場はできています。しかし、それを活用するシステムの基盤整備は、人文系に関してはひどく遅れているのが実情のようです。ことはそれほど単純ではありませんが、人文・自然を問わず、学術情報利用の観点から、今後なんとかしたい問題ではあります。

この問題には、まだ乗り越えなければならない課題に、著作権問題があります。これが解決しないと、理工系の利用も現在の制限されたままでいるしかありません。企業などとは異なって大学における著作の利用をどのように位置付けるか、目下、関係者の協議がつづいています。附属図書館はそれに積極的に意見を述べる立場にたっています。社会において大学のはたすべき役割と地位が、そういった視角からも問われているということができます。

3) 保存図書館

国立大学図書館協議会では、保存図書館（Deposit Library）を地域ごとに新設するよう要望をだしています。図書は年々増加する宿命にあります。自然科学の雑誌などのように、古くなったら廃棄できるものはともかく、人文・社会科学を中心とする分野では、図書の学術的生命が長く、資料としての価値も高いものが多いのです。10年に1度しか利用されない本でも図書館は提供する義務があります。かといって、書庫をあふれるままにしておくことはできません。保存図書館は比較的利用頻度の低い図書を格納しておき、請求のあったときに貸出すものです。

なんでも欧米を持ち出したいわけではありませんが、私は博物館を作るとき図書館もかなり観て回りました。とくに、アメリカの主要な大学では、学生図書館のほかに保存図書館と稀観本・写本図書館（Rare Book and Manuscript Library）をあわせてもち、統合運用がなされていたことが印象に残っています。本学の場合、貴重本の書庫はよく整備されていて、古文書・古記録をふくめ稀観本の保存環境は良好に保たれています。ただ、私の専門分野に近いので少し余計なことをいえば、ハードはよいがソフトはまだまだ。虫食いや湿気の入った貴重本を修理して利用できるようにするための費用はわずかで、恒常的には保証されていないのです。また、東大のように大震災を被らなかつたおかげで、普通の図書館なら貴重書に分類されているような図書が書棚に並んでいます。これもかねて気懸かりなことのひとつですので、この機会に付け加えておきます。

それはともかく、保存図書館が仮に近畿地区の大学共同利用としてでもできれば、附属図書館の運営はずいぶん楽になるのではないのでしょうか。そのためには、多分、学内の図書利用の条件を整える必要があるでしょう。500万冊のなかには重複しているものもありましょうし、それらを整理しても不自由しないだけのシステムを実現しておかなければなりません。いまの部局図書館と中央図書館の関係は100年前に原型ができたもので、伝統として十分成熟した実績をもっています。これを生かしながら、さらに進んで、こんにちの学術の要求に適合しているかどうか、ハードとソフトの両面にわたって検討を加えるべき時期にきていると思われます。

あまり熱心ではなかつた利用者が館長業に足をつつこんで二ヶ月、まだ館長にはなりきらないサナギが寝言をいっているような文章になりました。ご批判をお待ちしています。

資料紹介

新しい CD-ROM がはいりました

静脩 Vol.27, no.2 でもお知らせ致しました様に附属図書館では CD-ROM による情報検索サービスをおこなっております。1990年当初日本語系5種、外国語系2種でスタートした CD-ROM ソフトも、現在は日本語系5種、外国語系6種に増加しております。内容は下記の通りです。

附属図書館所蔵 CD-ROM ソフト一覧

〈日本語系〉

* AURORA on CD-ROM : 青山学院大学蔵書目録

* CD-HIASK : 朝日新聞全文記事情報

* 学術雑誌総合目録 CD-ROM 版

* 国文学研究資料館蔵マイクロ資料目録

* 電子広辞苑

〈外国語系〉

* Books in Print Plus (図書の出版情報)

* Ulrich's Plus (逐次刊行物の出版情報)

① Boston Spa Conferences on CD-ROM

② Boston Spa Serials on CD-ROM

③ Bibliographie Nationale Française depuis 1975

sur CD-ROM

④ Deutsche Bibliographie on CD-ROM : DB-CD
aktuell : 1986 ff. Series A,B,C,H and N

上記①-④が、新たに受け入れられた CD-ROM です。①、②については British Library、③は Bibliothèque Nationale、④は Deutsche Bibliothek の編纂による目録情報が収録されています。それぞれイギリス、フランス、ドイツの国立図書館であり、例えて言えば日本における国立国会図書館の蔵書目録ということになるでしょう。

その内容について以下に簡単にご紹介致します。

① Boston Spa Conferences on CD-ROM

BL (British Library) の DSC (Document Supply Centre) 部門が所蔵する英国及び各国で開催された学会、国際会議等の会議録の書誌データ。データ件数300,000件。データ更新頻度は年4回。年間増加件数20,000件。検索項目としては、会議名、キーワード、開催日、開催地、スポンサー、会議のシリーズ名、出版者、出版地等14項目。

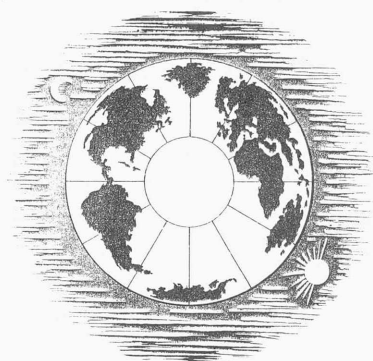
② Boston Spa Serials on CD-ROM

BL の DSC 部門及び英国の他の図書館 (Camb-

ridge University Library, The Science Museum Library) が所蔵する逐次刊行物(新聞、年鑑、モノグラフシリーズ、不定期刊行物等を含む)の書誌データ。データ件数435,000件。データ更新頻度は年2回。年間増加及び更新件数81,000件。検索項目としてはタイトル、キーワード、ISSN、出版国等10項目。

BOSTON SPA SERIALS

THE BRITISH LIBRARY DOCUMENT SUPPLY CENTRE



③ Bibliographie Nationale Française depuis 1975 sur CD-ROM

フランスの代表的な全国書誌である Bibliographie de la France の1975年版以降と Publications Officielles (フランスの公文書・EC、UNESCO、OECD等の国際機関の公文書も含む)の1987年以降の追録の書誌データ。データ件数400,000件。データ更新頻度は年4回。年間増加件数30,000件。検索項目としてはタイトル、著者、キーワード、主題、出版者、出版年等20項目。メニュー表示英・仏語可能。

④ Deutsche Bibliographie on CD-ROM :

DB-CD aktuell : 1986 ff. Series A,B,C,H and N

Buchhändler-Vereinigung GmbH 社の発行する旧西ドイツの全国書誌 Deutsche Bibliographie の1986年版以降の完全収録版。Series A (Book-trade publications : 商業出版物)、Series B (Non-book-trade publications : 非商業出版物)、Series C

(Maps : 地図)、Series H (University publications : 大学学位論文等)、Series N (CIP data for new titles not yet catalogued : 出版4週間前のCIP [= Cataloguing in publication] 付与文献のみを対象とする近刊情報)の全てを収録。データ件数600,000件。データ更新頻度は年3回。検索項目はタイトル、著者、キーワード、主題、出版者、出版年、ISBN、ISSN等19項目。メニュー表示英・仏・独語可能。

先に述べましたようにいずれも蔵書目録ですが、特に①に収録されている会議録は、情報の迅速性、研究内容のオリジナリティの高さという点で特に重要な一次資料です。通常これらは会議の出席者のみに配布される内部資料で、発行部数も少なく入手しにくいものです。BLDSCによるこれら会議録の収集・整理作業及びこうしたCD-ROMによる情報提供は、研究者にとって朗報といえるでしょう。

また、検索の結果得られた結果に基づき海外に文献複写を申し込む事もできます。

検索方法はメニュー方式であり、操作手順は画面が示してくれます。困ったときのためにヘルプキーも付いています。特に便利な機能としてはブラウズ(一覧)機能があります。これは、キーワード、タイトル、著者、出版者、ISSN、ISBNなどデータベース中の入力事項を一覧＝流し読みできるといえるものです。手元にある情報があやふやである場合でも、このブラウズ機能を使ってワードを選択すれば求める情報に到達することも可能になります。検索・抽出したデータはフロッピーにダウンロードすることも機械的には可能です。また図書館の目録作成業務や文献申込の際の書誌確認等にも有効です。

上記のいずれのCD-ROMにもこれらの機能が付いています。是非一度、ご利用下さい。ご不明の点がございましたらお気軽に掛員にお尋ね下さい。電話でのお問い合わせは内線の2636, 2637(外線からは753-を付加)です。(参考調査掛)

お知らせ

土曜日のサービスが変わりました

平成4年5月からの国家公務員の完全週休二日制の実施にともない、学内各部局の業務は原則として休業・閉庁となっています。

学内図書館（室）のうち、土曜日でも開館しているところは、次の4ヶ所です。

【附属図書館（中央図書館）】

- ☆開館時間 *10時～17時
- ☆土曜休館日 *7月11日～9月5日の授業休業中の土曜日（当面）
- ☆サービス業務 *1階、2階に配架の図書・雑誌の閲覧、貸出（10時30分～15時）、返却
*複写（校費振替でカード使用のみ）
*書庫内資料の利用、入庫検索はできません。
- ☆問合せ先 *資料運用掛 753-2633

【法学部図書室】

- ☆開室時間 *9時～12時
- ☆サービス業務 *開架コーナーの図書・雑誌の閲覧（持出しはできません）
- ☆問合せ先 *閲覧掛 753-3114

【医学図書館】

- ☆開館時間 *10時～16時
- ☆サービス業務 *雑誌の閲覧、貸出、返却
*図書の返却
- ☆問合せ先 *閲覧掛 753-4313

【教養部図書館】

- ☆開館時間 *9時～15時
- ☆サービス業務 *閲覧、貸出、返却（開架・書庫）
10時～14時30分
*教室所蔵図書の利用は、できません。
- ☆問合せ先 *閲覧掛 753-6525

注）平日及び従来の土曜日のサービス業務との内容に変更点、制限等がありますので、そ

れぞれ電話等で確認のうえご利用ください。
（資料運用掛）

利用者カードを発行しています

附属図書館と教養部図書館は、自動入退館システムと、コンピュータ貸出方式（開架図書のみ）をとっています。附属図書館で発行する利用者カード（図書館利用証）は、両館の入館証と貸出証を兼ねるものです。

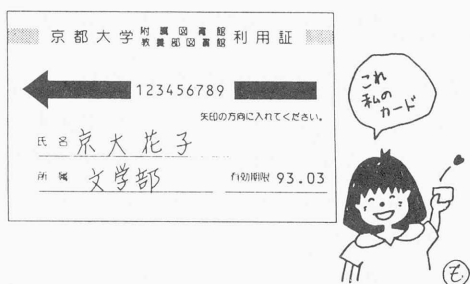
カード発行の際には、申請用紙に氏名、住所等を記入の上、身分証（学生証）の提示を必要とします。カードの有効期限は、身分証の有効期限に準じて設定します。在籍期限更新の場合は、新たに申請しなおして下さい。

学部生と修士課程院生は、入学・進学の際の名簿を元にカードを一括作成してありますので、申請用紙記入後、即時にカードを受け取ることができます。平成4年度の新入生・新院生のカード交付は、4月14日に開始し、同月末日までの13日間で、新入生の76.2%、新院生の45.6%が交付を受けています。未だ交付を受けていない方は、図書館にお立ち寄りの際に申請をしてください。前年度以前の入学・進学者のカードも作成して保管してあります。上記以外の方（教職員、博士課程院生、研修員聴講生等）の新規発行と、在籍期限更新による再発行の場合は、カード作成までに、申請後1週間程かかります。

カードを紛失した時は、悪用を防ぐ為に、必ず「紛失届」を出して下さい。約2週間後に新しいカードを発行します。所属、姓、住所等を変更した時も、届を出して下さい。なお、紛失カードや旧カードで貸出中の図書が、附属図書館又は教養部図書館にある時は、新しいカードが発行出来ませんので注意して下さい。

入館の際には必ずカードを入館機に通して下さい。矢印の方向に正しく挿入してもエラーメッセージが出るときや、入館機の中にカードが引っかかるときは、カードを作りなおすことも出来ますので、遠慮無くメインカウンターに申し出て下さい。

カードの発行申請・交付は、附属図書館の受付カウンターで、月～金曜日の9時～11時45分、13時～16時45分に受け付けています。(資料運用掛)



図書館利用案内ができました

利用者のみなさんに図書館をよりよく利用していただく為に、下記の小冊子を作成しています。

* 新入生のための Library Guide 1992

新入生が一番利用する機会が多いと思われる教養部図書館と附属図書館を中心に説明しています。図書や雑誌のさがし方の他、参考図書(レファレンス・ブック)や語学学習のためのAVブースの利用についても案内しています。

なお、5月からの土曜日の時間変更にはふれておりません。ご注意ください。

* 利用のしおり 1992/93

教官・院生を対象として配布しています。学内すべての図書館(室)の利用案内となっています。特殊文庫、大型コレクションの案内の他、学内にある主な二次資料、学外の主なサービス機関を紹介しています。

* 利用案内 1992

「利用のしおり」から附属図書館の説明だけを抜き出したものです。

* A User's Guide to the

Kyoto University Library 1991/92

留学生を対象とした附属図書館の案内です。

この他見学者のために、「京都大学附属図書館概要 1989/90」を用意しています。(参考調査掛)

文献複写の入手がはやくなります

平成4年4月1日からNACSIS-I L L(学術情報センター Inter-library Loan)システ

ムが開始されました。NACSIS-I L Lシステムとは、図書館間で実施している文献複写・現物貸借に係る業務のうち、所蔵調査及び通信・連絡に係る部分をオンラインで行うというものです。

従来は、文献複写・現物貸借の申込み時にカウンターで利用者に記入してもらった申込用紙自体を受付相手館に郵送していました。このI L Lシステムでは、担当者が、まず利用者の記入した申込書をもとに端末に書誌事項を入力して、所蔵館を検索します。つぎに受付相手館を指定したのち、申込者氏名等を入力するという手順で依頼レコードを作成して、このレコードを送信します。

この方法によれば、申込館では切手、封筒が不要となります。また、送信すると同時に、受付館では直ちに受付できる状態になりますので、郵送日数の節約にもなります。

このシステムの最大のメリットは、謝絶レコードの自動転送にあります。従来の方法では、受付館が欠号・貸出中等の理由で依頼に応じられない場合、謝絶通知を申込館に郵送します。その後、通知を受け取った申込館では、所蔵館を再調査した後、新たに申込書を作成し郵送していました。

しかし、新しいシステムでは、端末での所蔵検索と依頼レコードの作成時に受付相手館を複数指定しておくことにより、最初の受付館で謝絶されたとき次候補館に自動的に依頼レコードが送られるようになっています。

このように、I L Lシステムの導入によって、申込館はより速くより確実に、求める文献を手に入れることができるわけです。

平成4年5月末現在、京都大学内では下記の図書館(室)がこのシステムに参加していますので、ご利用ください。なお、カウンターでの申込方法は従来と同じです。

【文献複写】

附属図書館(依頼・受付)

教養部図書館(依頼・受付、今秋から参加予定)

化学研究所図書室(依頼)

原子炉実験所図書室(依頼)

【現物貸借】

附属図書館(依頼・受付)

(相互利用掛)

平成3年度 蔵書統計

(平成4年3月31日現在)

部 局 名	純 増 加 数 (冊)			蔵 書 累 計 (冊)		
	和 書	洋 書	合 計	和 書	洋 書	合 計
附 属 図 書 館	12,719	1,669	14,388	481,486	255,951	737,437
文 学 部	5,716	4,646	10,362	434,328	284,138	718,466
教 育 学 部	2,148	1,612	3,760	60,636	47,480	108,116
法 学 部	2,893	3,630	6,523	218,722	292,081	510,803
経 済 学 部	3,311	3,400	6,711	191,319	190,629	381,948
理 学 部	-925	-1,173	-2,098	42,027	192,833	234,860
医 学 部	961	1,777	2,738	38,485	97,894	136,379
附 属 病 院	34	52	86	11,764	22,545	34,309
薬 学 部	241	646	887	10,181	25,664	35,845
工 学 部	2,008	5,006	7,014	128,425	235,062	363,487
農 学 部	1,424	1,590	3,014	158,516	134,564	293,080
附 属 農 場	6	7	13	586	113	699
附 属 演 習 林	90	117	207	9,190	2,489	11,679
教 養 部	4,142	4,367	8,509	282,669	243,817	526,486
大学院人間・環境学研究所	223	1,621	1,844	223	1,621	1,844
化 学 研 究 所	95	781	876	7,844	31,351	39,195
人 文 科 学 研 究 所	6,232	1,274	7,506	393,707	56,482	450,189
胸 部 疾 患 研 究 所	15	109	124	1,610	4,199	5,809
原 子 エ ネ ル ギ ー 研 究 所	51	334	385	4,744	12,131	16,875
木 質 科 学 研 究 所	19	117	136	4,854	4,395	9,249
食 糧 科 学 研 究 所	22	270	292	3,936	9,779	13,715
防 災 研 究 所	29	504	533	7,603	23,408	31,011
基 礎 物 理 学 研 究 所	94	1,842	1,936	7,359	63,249	70,608
ウ イ ル ス 研 究 所	11	66	77	462	9,429	9,891
経 済 研 究 所	705	876	1,581	35,831	28,280	64,111
数 理 解 析 研 究 所	39	922	961	5,972	63,562	69,534
原 子 炉 実 験 所	8	276	284	13,716	28,155	41,871
霊 長 類 研 究 所	577	749	1,326	4,848	9,764	14,612
東 南 ア ジ ア 研 究 セ ン タ ー	1,240	3,173	4,413	14,975	48,133	63,108
大 型 計 算 機 セ ン タ ー	330	564	894	3,728	8,332	12,060
ヘリオトロン核融合研究センター	9	150	159	887	2,458	3,345
放 射 線 生 物 研 究 セ ン タ ー	0	0	0	160	1,354	1,514
環 境 保 全 セ ン タ ー	28	78	106	503	412	915
情 報 処 理 教 育 セ ン タ ー	0	5	5	224	500	724
超 高 層 電 波 研 究 セ ン タ ー	0	33	33	454	2,278	2,732
生 態 学 研 究 セ ン タ ー	1,509	3,612	5,121	1,509	3,612	5,121
アフリカ地域研究センター	360	1,491	1,851	2,726	6,552	9,278
生体医療工学研究センター	0	5	5	213	260	473
医 療 技 術 短 期 大 学 部	809	178	987	20,573	4,963	25,536
本 部	0	0	0	2,148	298	2,446
合 計	47,173	46,376	93,549	2,609,143	2,450,217	5,059,360

※ 本部：経理部、施設部、保健診療所、学生部

図書館の動き

新館長の就任

4月1日、附属図書館の新館長に文学部の朝尾直弘教授が就任しました。西田龍雄前館長の停年退官にともなって、2月28日の附属図書館商議会において選出され、総長に推薦されたものです。

平成4年度調査研究員の委嘱

昨年度に引き続き、附属図書館調査研究員の委嘱が、2月28日の附属図書館商議会において承認されました。

「目録カードによる遡及入力の研究」

大型計算機センター 星野 聡 教授

「学術情報ネットワークの研究」

大型計算機センター 金澤 正憲 助教授

「図書館資料情報のオンラインサービスの研究」

大型計算機センター 久保 正敏 助教授

協議会の開催

4月28日、近畿地区国立大学図書館協議会が開催され、昨年度事業の報告、今年度役員の選出などが行われました。国家公務員の完全週休2日制実施に伴う附属図書館の運用状況については、開館11大学、休閉館3大学（検討中含む）でした。開館するところもほとんどが時間を短縮したり、サービス内容を縮小しています。また、6月に開催される全国の協議会総会に向けての討議も行わ

れ、地区として「国立大学附属図書館における自己評価について（大阪大学提案）」と「学生用図書購入費の増額について（京都大学提案）」を分科会テーマとして提出することが了承されました。

また、同日近畿地区国公立大学図書館協議会の企画委員会も開催されました。昨年度の事業報告や今年度の役員選出、事業計画についての討議が行われ、研究集会や講演会など、ほぼ昨年同様の事業を実施することになりました。

日米大学図書館ワンデイセミナーの準備

今年10月に東京で日米大学図書館会議が開催されます。日米の大学図書館関係者がその交流を図るため、何年かに1度日米交互に開催しているものです。

ワンデイセミナーは、この日米会議の出席者が限定されていることから、その他の関係者も参加できるようにするために開催されるものです。今回は10月12日に京都において、国公立大学図書館協力委員会と日本図書館協会大学図書館部会の共催で開催される予定です。

その実行委員会（委員長：京都大学附属図書館長）が4月28日に、同委員会幹事会が5月14日に附属図書館で開催され、その準備に向けて討議されました。

目 次

〈巻頭記事〉	文献複写の入手がはやくなります	6
館長サナギの見習い日記	〈図書館の動き〉	
〈資料紹介〉	新館長の就任	8
新しいCD-ROM がはいました	平成4年度調査研究員の委嘱	8
〈お知らせ〉	協議会の開催	8
土曜日のサービスが変更になりました	日米大学図書館ワンデイセミナーの準備	8
利用者カードを発行しています	〈その他〉	
図書館利用案内ができました	平成3年度蔵書統計	7

後 記

緑の美しい季節です。窓から眺める吉田山の緑もようやくその深さを増してきました。本誌も昨年百号を迎え新たな気持ちで再出発です。（す）

教養部キャンパスを埋めつくした新入生の群れも一段落、土曜開館も一応落ち着きほっとしたらもう6月。編集委員の任期も終わりです。（に）